

—「大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組状況について—

1 進捗状況について

基本目標 1 安心な暮らしを守り、利便性の高い生活を確保する

【基本目標の指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
H26=59.7% H21=57.7%	定住意向の向上（住民意識調査）	—	—	—	—	
H25=9.8%	住宅の空き家率の抑制	—	—	—	11.6%	

施策① 「大山崎ぐらし」の維持向上

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
H26=338人	社会福祉協議会ボランティア登録人数 350人	311人	320人	338人	348人	
H26=1,200人	町防災・防犯情報メール登録者数 2,600人	1,612人	2,538人	2,956人	3,324人	達成
H26=30団体	自主防災組織の結成数 50団体	31団体	32団体	33団体	33団体	
H26=12.0%	「生活用道路の安全・快適さ」の満足度 29.0%	—	—	—	—	
H25=12.6% (二次除く 9.8%)	空き家率の抑制	—	—	—	12.1% (11.6%)	

【現況と課題】

- ・住んでよし、働いてよし、訪れてよしが実感できる「大山崎ぐらし」の維持向上への取組として、安心・安全にらせるよう自助・共助・公助による地域づくりの推進とともに、自主防災組織の充実など、地域の防災力や防犯力の強化に取り組んでいるが、メールの登録者のみ達成できている。これは、防災・防犯への意識の高揚が進む一方で、共助の源泉となるボランティア登録数や自主防災組織の結成については、担い手の高齢化などによる担い手不足により達成できていない。
- ・空き家の状況については、住宅開発による住宅戸数が増加するなかで、全体的には大きな変動は見られないが、二次を除く率は高くなった。

施策② 地域交流イベントやスポーツ交流による地域づくりの推進

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
H26=9.5%	「町内の交流活動」の満足度 13.5%	—	—	—	—	
H26=55,331人	町体育館利用者の拡大	51,540人	56,363人	17,130人	48,769人	

【現況と課題】

- ・天王山をはじめとする町内資源や施設を活用した文化交流やスポーツ交流による地域づくりの推進については、「円明寺が丘夏祭り」のほか、平成27年度から平成30年度までの4年間にわたり「天王山ゆひまつり」が住民団体主体で開催がされた。また「天王山ゆひまつり」の開催日には地元企業主催の祭り会場ともシャトルバスの運行による相互交流が図られてきた。
- ・これまで、住民団体主催で開催していたフェンシング大会は、平成28年度から「大山崎町天王山カップ少年少女フェンシング大会」に改名して町主催大会として取り組み、近年では海外からの参加者もあり約500人規模の大きな大会になっている。
- ・町体育館の利用状況は、平成29年度の大規模改修に伴って、平成29年度、平成30年度の利用者数が、平成28年度に比べて減少したが、令和元年度の利用者数は戻りつつある。
- ・スポーツの拠点施設である町体育館は、平成29年度の大規模改修によりエレベータや大体育室へのエアコンが整備され、これまで以上に使いやすい施設になっているので全国大会の誘致など交流人口の拡大に向けての取組が求められる。

基本目標 2 活力の回復・向上を担う人を育成する

【基本目標の指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
H25=2,510人	子ども人口（0～17歳）維持	2,572人	2,577人	2,644人	2,705人	達成

施策① 出産・子育てがかなう環境づくり

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
H25=17.4%	出生数全体に占める第3子以降の割合 18%	15.1%	8.5%	10.0%	13.9%	※
H26=100%	妊婦健康診査の健診率（100%）維持	維持 (209人)	維持 (244人)	維持 (266人)	維持 (275人)	
H26=100%	乳児家庭全戸訪問事業の訪問率（100%）維持	維持 (133人)	維持 (140人)	維持 (180人)	維持 (169人)	
H26=100%	延長保育の利用ニーズ（利用者数）への対応率（100%）の維持	100% 維持	100% 維持	100% 維持	100% 維持	
—	一時預かり保育の利用者数 15,600人日（幼稚園）2,624人日（幼稚園以外）	幼：3,552人 日 保：1,201人 日	幼：3,833人 日 保：1,103人 日	幼：3,576人 日 保：1,535人 日	幼：5,971人 日 保：1,276人 日	
—	病児・病後児保育の利用者数 780人	利用者 47人	利用者 38人	利用者 108人	利用者 109人	
H26=11人	ファミリー・サポート・センター提供会員数 25人	会員数 12人	会員数 13人	会員数 17人	会員数 18人	

※（年度別出生数）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
出生数	144人	146人	139人	141人	171人	165人
うち第3子以降の出生数	25人	15人	21人	12人	17人	23人

【現況と課題】

- ・「子育てするなら大山崎」との子育て世代からの評価を深化するため、安心して出産・子育てができる環境の充実については、子ども人口（0～17歳）が年々増加するなか、保育の受け皿として小規模保育所2か所、民間保育所1か所の整備を進めてきたところ年度当初の待機児童ゼロを実現している。
- ・また、乳幼児及び児童・生徒に係る医療費の一部を支援する子育て支援医療費助成制度についても、京都府とも連携して制度の拡充を図り子育て世帯の経済的負担軽減を図り、安心して子どもを産み育てる環境づくりを推進している。
- ・出生数に占める第3子の割合については、目標値まで届いていないが、全国的に出生数が年々減少している中で、本町の出生数は横ばい状況を維持している。
- ・ファミリー・サポート・センター提供会員数は、年々増加はしているものの今一つ伸び悩んでいることから、今後は、子育て世代が情報共有できるネットワークや交流の場づくりも視野に入れての取組が求められる。

施策② 学力向上と生きる力を育む教育環境づくり

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
—	学力診断テストの正答率の向上	—	—	—	—	
H26＝普通教室数 21(0)/51室	普通教室の半数に1台のICT機器の整備 既存ICTも含む数（新設ICTの数）	23(2)/51	30(7)/51	38(8)/51	43(5)/51	
H26＝協力事業所 数21か所	体験活動・学習の協力事業所の拡大	21ヶ所	22ヶ所	21ヶ所	21ヶ所	
—	子ども会ネットワークの設置	—	—	—	—	

【現況と課題】

- ・本町の教育環境の特性を活かした保育所、幼稚園、小学校、中学校の連携による就学前児童からの一貫した教育支援による子ども達の「学力向上」と「生きる力」を育む環境づくりでは、普通教室への大型モニターを設置してのICT活用授業の環境整備は着実に進んでいる。
- ・特色ある教育の取組として、平成28年度から英語検定への補助などを通しての英語教育の推進を図っており、現在では小学生英検を年2回、中学生は年3回実施して、英語科目の学力向上を図っている。
- ・また、特色ある地域スポーツとして環境が整っている「フェンシング」については、今年度の国民体育体会の少年女子の部で京都府のチームが2連覇するなど、本町出身の高校生が活躍しており地域スポーツの財産となっている。このようなことから、引き続き同スポーツの普及を図っていくことが求められる。

基本目標3 大山崎町への新しい人の流れをつくる

【基本目標の指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
H21—25年 =▲131人	社会増減（転入者数－転出者数）0人	107人	154人	140人	104人	達成
H25＝ 402,444人	観光入込客数 48.5万人超	482,827人	512,649人	499,864人	467,069人	
H25＝ 99,040千円	観光消費額 117,000千円超	128,326千円	134,536千円	118,889千円	130,390千円	達成

施策① 大山崎町への定住の推進

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
—	町外在住者が参加できる事業の拡大による在勤者の施設利用の拡大	—	—	—	—	
—	定住相談件数の拡大	1件	0件	2件	0件	
—	定住総合相談窓口の設置	設置	維持	維持	維持	

【現況と課題】

- ・移住促進情報の発信など新たな定住者希望者を発掘する取組としては、子育て支援誌の子育てフリーマガジン「クルールきょうと版」に町のPR記事を連載（5回）し、その連載記事をまとめた冊子「大山崎町に住もう」を1万部発行した。
- ・同冊子を不動産業者等に配布して本町への移住を呼びかける取り組みを進めたが、定住相談件数の拡大には繋がっていないが、阪急西山天王山駅の開業に伴う宅地開発の活発化により人口の社会増減はこの間増加傾向になっている。（定住促進窓口の在り方と、相談件数を評価指標とすることには検討課題である。）
- ・また、町商工会では、新規店舗出店に係る「店舗物件」の相談が月1件程度はあるものの、マッチングできる空き物件が不足していることから新規出店には繋がっていない。

施策② 観光資源の発掘・創造から観光資産への促進

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
—	観光協会の設立	—	—	—	—	
H26=900件	町ホームページの観光情報へのアクセス件数 (月平均) 1,600件	631件	—	4,701件	3,651件	
H25=17人	外国人宿泊者数の倍増(年次)	134人	114人	57人	69人	
H26=270人	広域連携観光参加者の拡大	334人	41人	65人	42人	
H25=5ルート	新たな回遊ルートの設置と広域観光マップへの反映	—	—	2ルート	—	
H26=9,775人	歴史資料館入館数 11,500人(年次)	9,280人	7,997人	8,001人	8,139人	
H26=16.3台	観光バス駐車利用台数(月平均) 19台超	17.1台	13.6台	11.4台	13.3台	

【現況と課題】

- ・観光振施策の取組については、町のシンボルである天王山をはじめ、リピーターの多いアサヒビール大山崎山荘美術館を中心に、町内観光施設への来訪者数は、年度により若干の増減があるものの一定の水準を保っている。
- ・特に、2020年の大河ドラマが明智光秀を主人公とした「麒麟がくる」に決定されたことにより、歴史をテーマとした観光客の来訪者や旅行業者のツアー造成が大河ドラマの放映前から活発化してきている。
- ・大河ドラマ「麒麟がくる」の放映は、歴史資料館の入館数増に直結する機会となるので、大河ドラマに合わせた企画展の開催や、観光関係者間(寺院、商工会等)の連携強化により、地域経済の活性化を図ることが求められる。
- ・また、住民が本町の歴史遺産を学び、誇りをもつことを通じて、歴史遺産の輝くまちづくりを推進する取組としては、平成30年度から住民や在勤者を対象とした「わが町再発見ツアー」を地元ボランティア団体の「大山崎ふるさとガイドの会」の協力を得て取組んでいる。
- ・外国人宿泊者数については、町内唯一の宿泊施設での宿泊数であるが、国のインバウンド観光の促進に伴って、町内観光施設への外国人訪問者数は、近年2,000人を超す状況になっているので、今後はこれら外国人観光客への対応が課題に求められる。

基本目標 4 大山崎町における安定した雇用を創出する

【基本目標の指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
H22=6,911人 男性：3,934人 女性：2,977人	町内就業者数の維持	7,134人	—	—	—	

施策① 地元産業の活性化による雇用の確保

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
H26=2,245人	「乙訓勤労者福祉サービスセンター」加入数 2,800人	2,216人	2,357人	2,316人	2,209人	
—	町内イベント事業等への参加事業所の拡大	—	—	—	—	

【現況と課題】

- ・町内大手事業所では、新工場の建設に取組まれ町内産業の振興に努められているところである。
- ・これら大手事業所では、町内で開催されるイベントへも積極的に出展されると共に、これらの事業所の一社では町のイベント会場と当該事業所の祭り会場間を移動できるシャトルバス（無料）を運行され、参加者の相互交流促進に努められている。
- ・町商工会加入の事業所数については、新規加入がある一方で、経営者の高齢化に伴う廃業により、会員数は平成28年以降微減傾向になってきている。
- ・また、中小事業者の福利厚生を担う「乙訓勤労者福祉サービスセンター」への加入数についても、平成28年度以降減少している。
- ・町内での新規出店に対する問い合わせは町商工会に月1件程度あるものの、マッチングできる物件が不足している。

施策② 地域ブランドの創出による地域経済の活性化

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
—	特産品開発の支援体制の整備	—	—	特産品開発	販売促進	
H26=1か所	農産物直売所数（1か所）の維持	維持	維持	維持	維持	

【現況と課題】

- ・特産品の開発については、大学生と地元事業所とのコラボで、ハートをモチーフにしたパイなどの開発を行い、イベントやデパートでの販促に取り組むが、販路拡大にはつながっていない。
- ・また、ハートをモチーフしたコーヒーカップの制作も地元陶芸家により行って、町内の飲食店でも使用されているところである。
- ・更に、「いざ天王山！」のロゴマークを活用したTシャツ等の物販事業所が創業されて、各種のイベントでの販売促進に取り組まれている。
- ・一方、地元農産物の消費拡大については、農業従事者の高齢化が進むなか農産直売所（1か所）を維持して、生産者と消費者の交流の場となっているが、これまで町の特産品であった筍を素材とした「天王山しぐれ」については、製造事業所の廃業により製造中止となっている。

施策③ 観光振興による雇用の創出

【重要業績評価指標】

基準値	目標値	27年度	28年度	29年度	30年度	備考
H25=17人	外国人宿泊者数の倍増（年次）【再掲】	134人	114人	57人	69人	
H26=270人	広域連携観光参加者の拡大【再掲】	334人	41人	65人	42人	
H25=246円	観光消費額（1人当たり）の倍増	266円	262円	238円	279円	
H26=97事業所 572人	卸・小売業の事業所数、従業員数の拡大	—	事業所数：86 従業者数： 441	—	—	

【現況と課題】

- ・広域観光による賑わいづくりへの取組については、これまでの「京都府観光連盟」、「乙訓・八幡」に加えて「大河ドラマ麒麟がくる推進協議会」や、乙訓地域全体の観光振興を深化する取組としての「かぐや姫観光推進協議会」での取組を促進しているところである。
- ・特に、2020年の大河ドラマが明智光秀を主人公とした「麒麟がくる」に決定されたことにより、歴史をテーマとした観光客の来訪や旅行者のツアー造成が大河ドラマの放映前から活発化してきており、歴史資料館では、歴史愛好家の来館が大河ドラマの放映に向けて増加傾向になっているので、観光関係者間（寺院、商工会等）の連携強化により来訪者の滞在時間の拡大を図ることで、地域経済の活性化が図れる機会になっている。

2 人口推移について(人口ビジョン推計4(出生・回復・社会移動:ゼロ)と実績値との比較)										【参考】		
										(単位:人)		
	人口ビジョン(推計4)の推移			実績値(10月1日)			人口ビジョンと実績値の比較			社人研平成30(2018)年推計		
	2015年 平成27年	2018年 平成30年	増減 (H30-H27)	2015年 平成27年	2018年 平成30年	増減 (H30-H27)	2015年 平成27年	2018年 平成30年	増減 (H30-H27)	2015年 平成27年	2020年 平成32年	2025年 平成37年
総数	15,415	15,331	-84	15,527	15,949	422	112	618	506	15,181	15,085	14,613
0~4歳	647	631	-16	683	789	106	36	158	122	672	661	593
5~9歳	762	662	-100	754	688	-66	-8	26	34	747	688	669
10~14歳	713	775	62	715	789	74	2	14	12	719	751	689
15~19歳	709	688	-21	730	697	-33	21	9	-12	735	711	763
20~24歳	694	708	14	667	739	72	-27	31	58	624	756	632
25~29歳	721	684	-37	781	744	-37	60	60	0	724	642	746
30~34歳	949	804	-145	987	990	3	38	186	148	945	800	683
35~39歳	1,069	1,005	-64	1,083	1,091	8	14	86	72	1,059	950	823
40~44歳	1,257	1,152	-105	1,272	1,177	-95	15	25	10	1,258	993	888
45~49歳	1,022	1,208	186	1,027	1,228	201	5	20	15	998	1,283	1,007
50~54歳	906	954	48	903	956	53	-3	2	5	895	967	1,244
55~59歳	793	859	66	790	851	61	-3	-8	-5	784	882	945
60~64歳	901	787	-114	906	783	-123	5	-4	-9	898	753	852
65~69歳	1,178	1,061	-117	1,174	1,077	-97	-4	16	20	1,161	863	711
70~74歳	1,077	1,033	-44	1,067	1,021	-46	-10	-12	-2	1,057	1,074	795
75~79歳	854	957	103	842	955	113	-12	-2	10	829	983	993
80~84歳	608	692	84	593	693	100	-15	1	16	578	694	804
85~89歳	365	418	53	363	429	66	-2	11	13	340	405	479
90歳以上	190	253	63	190	252	62	0	-1	-1	158	229	297
(再掲)0~14歳	2,122	2,068	-54	2,152	2,266	114	30	198	168	2,138	2,100	1,951
(再掲)15~64歳	9,021	8,849	-172	9,146	9,256	110	125	407	282	8,920	8,737	8,583
(再掲)65歳以上	4,272	4,414	142	4,229	4,427	198	-43	13	56	4,123	4,248	4,079
(再掲)75歳	2,017	2,320	303	1,988	2,329	341	-29	9	38	1,905	2,311	2,573
										(単位:%)		
年齢構成	2015年	2018年	増減	2015年	2018年	増減	2015年	2018年	増減	2015年	2020年	2025年
0~14歳:%	13.8%	13.5%	-0.3%	13.9%	14.2%	0.3%	0.1%	0.7%	0.6%	14.1%	13.9%	13.4%
15~64歳:%	58.5%	57.7%	-0.8%	58.9%	58.0%	-0.9%	0.4%	0.3%	-0.1%	58.8%	57.9%	58.7%
65歳以上:%	27.7%	28.8%	1.1%	27.2%	27.8%	0.5%	-0.5%	-1.0%	-0.6%	27.2%	28.2%	27.9%
75歳以上:%	13.1%	15.1%	2.0%	12.8%	14.6%	1.8%	-0.3%	-0.5%	-0.2%	12.5%	15.3%	17.6%

注)【参考】は国立社会保障・人口問題研究所の『日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計』による。